

草あやめ

泉鏡花

青空文庫

二丁目の我が借家の地主、江戸兎えどつこにて露地を鎖さず、裏町の木戸には無用の者入いるべからずと式かたの如く記したれど、表門には扉さへなく、夜が更けても通行勝手なり。但知たゞちかづき己の人の通り抜け、世話に申す素通りの無用たること、我が思おもひもかはらず、然さりながらお附合五六軒、美人なきにしもあらずと雖いへども、濫みだりに垣間見かいまみを許さず、軒に御神燈の影なく、奥に三味さみの音ねの聞ゆる類たぐひにあらざるを以て、頬ほ被かぶり、懐ふところ手、湯上りの肩おきてぬぐひに置手拭おきてぬぐひなどの如何いかゞはしき姿を認めず、華主とくいまはりの豆腐屋、八百屋、魚屋、油屋の出しゅつ入にふするのみ。

朝まだきは納豆売、近所の小学に通ふ幼きが、近ちかみち路なれば五

ツ六ツ袂たもとを連ねて通る。お花やお花、撫子なでしこの花や矢車の花売、
月の朔ついたち日十五日には二人三人呼びも以て行くなり。やがて足駄あしだの
齒入は入れ、鋏はさみ磨とぎ、紅梅の井戸端といしに砥石といしを据ゑ、木槿むくげの垣根てんびに天
秤んを下ろす。目黒の筍たけのこ売うり、雨の日に蓑みの着て若柳の台所を覗
くも床ゆかしや。物干の竹二日月に光りて、蝙蝠かうもりのちらと見えたる
夏もはじめつ方、一あるゆふべ夕ゆふべ、出窓の外を美しき声して売り行くも
のあり、苗や玉苗、胡瓜の苗や茄子の苗と、其の声あたか恰も大川の隴
に流るゝ今戸にあがあたりの二上りの調子ちよつとに似たり。一寸苗屋さんと、
窓から呼べば引返ひつかへすを、小さき木戸を開けて庭に通せば、潜くゞる
時、笠を脱ぎ、若き男の目つき鋭からず、頬まろの円まろきが莞爾莞爾にこにこ
て、へいゝゝ召しましと荷を下ろし、穎割葉かひわりばの、蒼とさかき鶏冠とさかの、

いづれも勢よきを、日に焼けたる手して一ツ一ツ取出すを、としより、弟、またお神樂座かぐらざ一座の太夫、姓は原口、名は秋さん、呼んで女をんながた形ようすといふ容子の可いいのと、皆縁側に出でて、見るもの一ツとして欲しからざるは無きを、初鯉は買はざれども、昼のお肴肴なにがし、晩のお豆腐いくらと、先まづ帳ちやうあひ合あをメ《し》めて、小遣の中より、大枚一步ところが処、苗七八種をずばりと買もつとふ、尤も五つつぽ坪には過ぎざる庭なり。

隠元いんげん、藤豆ふぢまめ、蓼たで、荔枝れいし、唐辛たうがらし、所帯たしのしの足と詈りたまひ

そ、苗売の若衆一々名に花を添へていふにこそ、北海道の花荔枝、鷹の爪の唐辛、千成せんなりの酸漿ほうづき、蔓なし隠元、よしあしの大蓼、手前商ひまするものは、皆玉揃ひの唐黍たうもろこしと云々うんぬん。

朝顔の苗、覆盆子の苗、花も実もある中に、呼声の仰々しきが
二ツありけり、曰く牡丹咲の蛇の目菊、曰くシ、デンキウモン也。
愚弟直たゞちに聞き惚とれて、賢兄にいさんお買かひなくと言ふ、こゝに牡丹咲
の蛇の目菊なるものは所謂いはゆる蝦夷菊也。これは……九代の後胤
平の、……と平家の豪傑が名乗れる如く、のの字二ツ附けたるは、
売物に花の他ならず。シ、デンキウモンに至りては、其その何等なんらの
物なるやを知るべからず、苗売に聞けば類なきしをらしき花ぞと
いふ、蝦夷菊はおもしろし、其の花しをらしといふに似ず、嚴いかめし
くシ、デンキウモンと呼ぶを嘲けるにあらねど、此この二種、一歩
の外、別に五錢なるを如何いかんせん。
然しかれども甚六なるもの、豈あにそれ夫白銅一片に辟易して可ならんや。

すなは
 即ち然り気なく、諭して曰く、汝若輩、シ、デンキウモンに私淑
 したりや、金毛九尾ぢやあるまいしと、二階に遁げ上らんとする
 袂を捕へて、可いぢやないかお買ひよ、一ツ咲いたつて花ぢやな
 いか。旦那だまされたと思し召してと、苗売も勧めて止まず、僕
 が植ゑるからと女形も頻に口説く、皆キウモンの名に迷へる也。
 長歎して別に五百を奢る。

垣に朝顔、藤豆を植ゑ、蓼を海棠の下に、蝦夷菊唐黍を茶畑
 の前に、五本三本培ひつ。彼の名にしおふシ、デンは庭の一段
 高き処、飛石の傍に植ゑたり。此処に予め遊蝶花、長命菊、金
 盞花、縁日名代の豪のもの、白、紅、絞、濃紫、今を盛に
 咲競ふ、中にも白き花紫雲英、一株方五尺に蔓り、葉の大なるこ

と掌たなそこの如く、茎の長きこと五寸、台うてなを頂く日に二十を下らず、蓋けだし、春寒き朝、めづらしき早起の折から、女形とともに道みち芝しばの霜を分けてお濠ほりの土手より得たるもの、根を掘らんとして、袂に火箸を忍ばせしを、羽織の袖の破やぶれめ目より、思がけず路に落して、大おほいに台所道具に事欠ことかきし、経営惨憺あだ仇ならず、心なき草も、あはれとや繁りけん。シ、デンキウモンの苗なるもの、二日三日の中うちに、此の紫雲英の葉がくれに見えずなりぬ。

荔枝の小さきも活いきく々々して、藤豆の如き早や蔓の端も見え初そむるを、徒いたづらに名の大おほいにして、其の実の小なる、葉の形さへ定さだかならず。二筋三筋すくくと延びたるは、荒れたる庭に撈むしり果つべくも覚えぬが、彼処かしこに消えて此処に顕れけむ、其処に又彼処に、シ、デ

ンに似たる雑草数ふるに尽きず、弟はもとより、はじめは殊ことに心を籠めて、水などやりたる秋さんさへ、いひ効がひなきに呆れ果てて、罵倒なぐめすること斜ななめならず。草が蔓つたるは、又してもキウモンならんと、以来さ然もなくして唯呼たゞ声のいかめしき渾名あだなとなりて、今日は御馳走があるよ、といふ時、弟も秋さんも、蔭で眩くらいて、シ、デンかとはばかりなりけり。

日ひを経るまゝに何事も言はずなりし、不ふ図と其そののシ、デンの菜さいにちうじき 昼食のちの後、庭にわを視ながむることありしに、雲うみの如ごとき紫雲英むらさきうんえいに交まじりてすみれ 小こさき薄紫うすむらさの花二ツ咲出さでたり。立寄たりて草くさを分わけて見れば、形かたち董すみれよりは大おほならず、六瓣むくはにして、其薄紫うすむらさの花はな片はなに濃こき紫むらさの筋すぢあり、蕊しべの色黄きに、茎こゝろは糸いとより細こく、葉はは水仙すいせんに似にて浅緑あさなづな柔なかう、

手にせば消えなむばかりなり。苗なりし頃より見覚えつ、紛ふべくもあらぬシ、デンなれば、英雄人を欺むあざけども、苗売我を愚になさず、と皆打寄りて、土ながら根を掘りて鉢に植ゑ、水やりて縁に差置き、とみかう見るうち、品も一段打上りて、縁日ものの比にあらず、夜露に濡れしが、翌日は花また二ツ咲きぬ、いづれも入相いりあひの頃しほみて東雲しのゝめに別なるが開く、三朝みあさにして四日目の昼頃見れば花唯一ツのみ、葉もしをれ、根も乾きて、昨日には似ぬ風情ふぜい、咲くべき蕾も探し当てず、然ればこそシ、デンなりけれ、申訳だけに咲いたわと、すげなくも謂ひけるよ。

翌朝あくるあさ、例の秋さん、二階へ駈上る登音高く、朝寝の枕を叩きて、起きよ、心なき人、人心なく花却かへつて情あり、昨さく、冷かに

いひおとしめしを恥ぢたりけん、シ、デンの花、開くこと、今朝
いつとき
 一時よそほひに十一と、慌あわたゞしく起出でて鉢いだを抱はなすけば花なすみれ 堇野山みれに満ち
 たる装よそほひなり。見つゝ思はず悚然ぞつとして、いしくも咲いたり、可愛かはゆ
 き花あざみ、薊おにゆり、鬼百合たけの猛くんば、我が言ことばに憤りもせめ、姿形のしを
 らしきにつけ、汝優もゝとせしき心より、百年よほひの齡を捧げて、一朝の盛
 を見するならずや、いかばかり、我を怨みなんと、あはれさ言ふ
 べくもあらずくちそゝ。漱くちそゝぎ果てつ、書齋なる小机に据ゑて、人なき時、
 端然として、失言を謝す。然しかも夕ゆふべにはしをれんもの、願くば、葉
 の命だに久しかれ、荒き風にも当つべきか。なほ心安からず、み
 づから我が心なかりしを悔いたりしに、次の朝に至りて更に十三
 の花咲けり、嬉しさいふべからず、やよや人々又シ、デンといふ

ことなかれ、我が家のものいふ花ぞと、いとせめて愛であへりし、
 其の日、日曜にて宙外君立寄らる。

まきたばこ
 巻 蓑

の手を控へ掌たなそこに葉を撫して、何ぞ主人のむくつけき、

何ぞ此の花のしをらしきと。主人大いに恐縮して仮名の名を聞け
 ば氏も知らずと言はる。忘れたり、斯道しだうに曙しよぎん山君ありけるを、

花一ツ採りて懐にせんも惜をしく、よく色を見、葉を覚え、あくる日、

四丁目の編輯局にて、しか／＼の草はと問へば、同氏領きて、

紙に図して是ならん、それよ、草菖蒲くさあやめ。女扇の竹青きに紫の珠

を鏤めたらん姿して、日に日に装増よそほむぎる、草菖蒲といふなりとぞ。

よし何にてもあれ、我がいとほしのものかな。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆1 花」作品社

1983（昭和58）年2月25日第1刷

1988（昭和63）年5月20日第13刷

底本の親本：「鏡花全集 卷二八」岩波書店

1942（昭和17）年11月発行

入力：真先芳秋

校正：kazuishi

2000年3月3日公開

2005年11月8日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

草あやめ

泉鏡花

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>